

# 河川事業の事後評価項目調書

事業名 (箇所名)	苫田ダム建設事業	事業主体	中国地方整備局					
実施箇所	岡山県苫田郡鏡野町久田下原地区							
該当基準	事業完了後一定期間(5年以内)が経過した事業							
事業諸元	形式：重力式コンクリートダム、ダム高：74.0m、総貯水容量：84,100千m <sup>3</sup> 付替道路：20.45km、家屋補償：504戸、用地買収：447.2ha							
事業期間	昭和47年度～平成16年度							
総事業費 (億円)	約2,035億円							
目的・必要性	<p>事業の目的</p> <p>洪水調節 昭和20年9月洪水(枕崎台風)、昭和47年7月洪水(昭和47年7月豪雨)等により多大な被害を受けた岡山市等、吉井川沿川地域の洪水被害を軽減する。</p> <p>流水の正常な機能の維持 吉井川流域の既得用水の取水の安定化及び河川環境保全等のための流量を補給する。</p> <p>灌漑用水 吉井川沿川の約243haの農地に対する灌漑用水の補給を行う。</p> <p>水道用水 岡山県広域水道企業団に対して、新規に最大400,000m<sup>3</sup>/日の取水を可能にする。</p> <p>工業用水 麒麟麦酒(株)に対して、新規に最大8,500m<sup>3</sup>/日の取水を可能にする。</p> <p>発電 岡山県が新設する発電所において、最大出力4,600kwの発電を行う。</p>							
便益の主な根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水軽減戸数：151戸</li> <li>・浸水軽減面積：152ha</li> <li>・想定年平均被害軽減期待額：222億円</li> <li>・洪水調節による便益：5,023億円(B1)</li> <li>・不特定利水の身替り建設費：282億円(B2)</li> <li>・残存価値：96億円(B3)</li> <li>・総便益：5,400億円(B)</li> </ul> <p style="text-align: center;">治水安全度の向上に伴う土地価格の上昇等の効果は含まない。</p>							
事業全体の投資効率性		B:総便益 (億円)	C:総費用 (億円)	B/C	B-C	EIRR(%)	基準年度	
	再評価	総便益 4,589	総費用 1,165	3.9	3,424	-	H11	
	事後	総便益 5,400	総費用 1,795	3.0	3,605	8.9	H16	
事業の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苫田ダムは、平成17年4月の管理開始以降、2回の洪水調節を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年9月台風14号では、最大132m<sup>3</sup>/sのダム流入量を貯留し、ダム下流の水位を低下させている。</li> <li>・平成18年7月豪雨では、最大430m<sup>3</sup>/sのダム流入量を貯留し、ダム下流の水位を低下させている。</li> </ul> </li> <li>・苫田ダムは、流水の正常な機能の維持及び都市用水の補給を実施している。</li> <li>・ダム放流水を利用する苫田発電所において、年間約2千万KWHを発電している。</li> </ul>							
事業実施による環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質について、下流河川への影響は特に見受けられないが、貯水池において、局所的・一時的な藻類の増殖や底層の溶存酸素の低下が見られる。</li> <li>・岡山県内では初となる陸封アユの確認といった注目すべき変化が見られる。</li> <li>・下流河川においてカマツカ及び底生動物の一部に変化が見られる。</li> <li>・ダム湖内へブラックバスの侵入・定着が確認された。</li> </ul>							

<p>社会経済情勢等の変化</p>	<p>1. 災害発生時の影響</p> <p>(1) 洪水発生時の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想定氾濫区域内人口： H12年 約143,724人 H17年 約142,738人 (0.993倍)</li> <li>・ 想定氾濫区域内世帯数： H12年 47,918世帯 H17年 50,974世帯 (1.064倍)</li> <li>・ 想定氾濫区域内一般資産額： H12年 2,956,319百万円 H17年 2,970,401百万円 (1.005倍)</li> <li>・ 想定氾濫区域内公共施設数： H12年 184カ所 H17年 183カ所 (0.995倍)</li> <li>・ 災害弱者関連施設 H12年 161カ所 H17年 153カ所 (0.95倍)</li> </ul> <p>行政機関(国土交通省西大寺出張所、岡山市役所瀬戸支所、岡山市東区役所、瀬戸内市役所長船支所、赤磐市役所熊山支所、和気町役場、美咲町役場柵原総合支所など)</p> <p>交通網(JR山陽新幹線、JR山陽本線、JR津山線、中国自動車道、山陽自動車道、国道2号、国道53号、国道374号など)</p> <p>医療・福祉施設(岡山西大寺病院、西大寺中央病院、瀬戸内市民病院、吉井川病院、赤磐市民病院、北川病院、柵原病院、津山第一病院など)</p> <p>教育施設(県立邑久高校、県立岡山城東高校、県立東岡山工業高校、県立瀬戸南高校、県立津山東高校、県立和気閑谷高校など)</p> <p>出典：河川現況調査(第8回(H13.3),第9回(H22.3))</p> <p>2. 地域開発の状況</p> <p>事業に関わる地域の土地利用：人口、資産等の変化 (吉井川沿川：岡山市、津山市他11市町村)</p> <p>人口：1.01倍(1,025,029人/1,018,476人) H16/H11数値 世帯数：1.12倍(400,435世帯/358,618世帯) H16/H11数値 事業所：0.91倍(44,286/48,779事業所) H16/H11数値 耕地面積：0.98倍(48,332ha/49,506ha) H16/H11数値 出典：岡山県統計年報(平成11,16年版)</p> <p>3. 地域の協力体制等</p> <p>ダム管理開始後の平成19,20年において、ダム関連施設への来所者は約6万人 平成21年3月には、「苫田ダム水源地域ビジョン」を策定 地元、鏡野町では、ダムを活用した地域振興に積極的に取り組んでいる。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>・ 事業効果が発現し、大きな社会情勢等の変化もなく、環境への重大な影響も見られないことから、今後の事後評価の必要性はない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>・ 改善措置の必要性はない。今後は、より良い管理に資するため、継続して事業の効果や環境への影響等の分析・評価を行い、必要に応じて改善措置をダム等管理フォローアップ委員会で審議する。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>特になし。</p>
<p>対応方針(原案)</p>	<p>対応なし</p>

<p>対 応 方 針 理 由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験湛水中及び管理開始以降 5 回の洪水時には苦田ダムの調節により下流の水位を低減している。</li> <li>・管理開始以降、苦田ダムからの補給により河川環境の保全に寄与している。</li> <li>・都市用水の補給実績があり、苦田発電所においても発電がなされている。</li> <li>・苦田ダム建設事業の費用便益比は 3.0 である。</li> <li>・苦田ダムは様々な行事の拠点となり、地域の活性化に貢献しており、平成 21 年 3 月には、「苦田ダム水源地域ビジョン」を策定し、今後も地域の活性化が期待できる。</li> <li>・事業の効果及び湖面創出等による新たな生物相の形成や環境の変化について、引き続きフォローアップ調査を行うとともに、分析・評価を行い、それらを合わせて定期報告を行う。</li> </ul>
<p>そ の 他</p>	<p>-</p>